

授業科目 「教育実践研究Ⅱ」
 担当教官 平松 義樹
 科目区分 教育実践研究
 受講生 36名

1 授業の目的と概要

本講座の目的は、最近の学校教育をめぐる諸問題、特に学力論や授業論について実践的に研究していくことにある。そして、教師としての使命感や実践的指導力を培うとともに、人間としての生き方について自ら考える力を育てることをねらいとしている。

2 学生による授業評価

本講座では、毎授業後に、下記のような項目について5段階評価を行っている。

話し方や説明の仕方が分かりやすかった 悪い< [1][2][3][4][5] >良い	教師の説明力を問う項目。難しいことを易しく説明できているか。 * 「5」の評価が97%、「4」の評価が3%
教育媒体が工夫されていた 悪い< [1][2][3][4][5] >良い	教育機器等を活用し授業効果を上げていたか問う項目。 * 「5」の評価が91%、「4」の評価が9%
構成や展開がスムーズであった 悪い< [1][2][3][4][5] >良い	90分間の授業構成を問う項目 * 「5」の評価が91%、「4」の評価が9%
新しい知識、概念、技能が身についた 悪い< [1][2][3][4][5] >良い	教授内容として知識や技能の習得があったかを問う項目 * 「5」の評価が97%、「4」の評価が3%
内容・レベルは適切だった 悪い< [1][2][3][4][5] >良い	授業の難易度を問う項目。 * 「5」の評価が88%、「4」の評価が3%、「3」の評価が9%
授業は満足のものであった 悪い< [1][2][3][4][5] >良い	授業の総合満足度を問う項目 * 「5」の評価が91%、「4」の評価が9%

最終授業評価は、下記のとおりである。

 * [学生の受講態度自己評価] 優 (50%)、良 (44%)、可 (6%)、不可 (0%) *
 * [学生による教師評価] 優 (94%)、良 (6%)、可 (0%)、不可 (0%) *
 * [学生の講座満足度評価] 優 (91%)、良 (9%)、可 (0%)、不可 (0%) *

授業改善への試み (昨年度のFDで私が今年度の課題として挙げたものである)

学生の講座満足度や教師評価は思いのほか良かったが、学生の主体的な学びへの参加という点では課題が残った。来年度は、講座の最初に、教育実習の体験等から自らの「課題」を意識させたい。そして、15回の講座の中で、自らの課題がどのように変容していったのかをメタ認知できるような取り組みを行いたいと思っている。毎回の講座において、「課題」を深めていくような「しかけ」としての教材を作成したいと思っている。

授業改善への試みの結果

今年度の傾向として、昨年度と同様に、教師や講座への満足度は高かったものの、学生自身の自己評価はやや低かった。教員から学生の授業の様子を見てみると、私語もなく居眠りもなく授業に没頭しているように感じられたが、学生はやや辛口で控えめに自己評価したようである。今年度の授業では、中学校におけるクラスルーム的雰囲気ができ、全員が一体感を感じつつ授業をすることができた。大学教員 11 年目で、初めてこのようなクラスルーム的雰囲気を醸成することができ、個人的には満足している。来年度もさらなるチャレンジをしたい。

3 学生の自由記述による授業評価

『教育実践研究Ⅱ』という講座は、私にとって・・・』という文章に続けて、自由記述によって15回の講座を振り返らせた。授業目的との関係で、どの程度、達成されたかを知るためである。以下は、学生の文章のいくつかをリストアップしたものである。

[O] この授業は、毎回必ず授業後に「すごいことを学んだ。大満足」と思えるような授業でした。私は教員志望ではありませんが、この授業では「学校での教育」だけではなく、「家庭の教育」、「人間教育」、また「人としての生き方」についても学べる授業であったと思います。特に、私が印象に残っているのは「生きているということは、誰かに借りをつくること。生きてゆくということは、その借りを返してゆくということ」の言葉です。今の私は、まだ借りをつくっている身ですが、その借りを返していけるように、これからも努力することを止めず、精一杯生きていきたいです。

[O] 授業をつくっていくときに、教師がしっかりと準備し、しかけをつくっていることがいかに大切かということを感じることができました。熱意は様々な形に変化させて表現させることができ、意図をもって重要を考えていくことで、子どもたちは予想通りのアクションを起こしたり、また考えもしなかった思考が出たりするという喜びやおもしろさを、先生のお話から存分に受けることができました。また、今まで、いろいろな記録が不十分だった私にとって、残していくこと、保管していくことが、確かな記憶となり未来に生きてくることを感じました。新たな視点や意欲をたくさん与えていただいたように思います。ありがとうございました。

[S] 毎回非常に内容が濃く盛りだくさんで、それでいて整然と並べられていて、教育の本質から具体的指導支援、教育の在り方、教授法など、本当に様々なことを学ぶ機会となり、1年間くらい通して講義をずっと受けていたいと思うくらいでした。平松先生の語り、実践を体感することで、毎回毎回、教師という職業がキラキラ輝いてみえました。先生が立っているところに私もいざれ立ちたいと思いました。

[K] 教育の職のすばらしさを感じることができました。教師を目指そうか、どうしようかと迷っているときに、平松先生の感動的なお話や熱いお話を聞くことができ、力が湧いてきました。教

師である前に、人間性を磨きたいです。さらに、たくさんの本を紹介してくださりよかったです。

[K] 私は子どもと向き合うことの楽しさを再認識できました。今回も先生の話は、プラスの部分を取り上げられており、マイナスの部分に触れることがあまりありませんでした。しかし、そうだったからこそ、自分は子どもとどう向き合い、どんな学級をつくるかということ具体的にイメージすることができました。

[T] この授業は、授業研究はもちろんのこと、教師としてどうあるべきか、そのようなことを考え、教師になるための心構えを形成することができるという面で、今教師を目指している私たちにとって大きな意味があったと思います。そのことによって、今、私たちは何を考えていく必要があるのか、どのような本を読んでいけばよいのかということが分かったような気がします。教師になるというモチベーションもあがったという意味でも大きな意味がありました。

[H] 毎回テーマが決まっており、先生が何を伝えたいのか、先生の想いがつまっていたのが伝わってきました。毎回資料を豊富にくださり、活動もたくさんあり、濃い時間を過ごせました。実践例など感情を揺さぶる時、理論的に学ぶ時、講話に来てくださる先生との出会い、そこから学ぶものは多かったです。先生の体験談、人柄に自分が教師になっていいのかという悩みが助けられました。自分の教育観と向き合える時間になりました。

[G] 教育とは何か、毎回自分自身に問いかけ、教育の本質や教育愛について深く考えることができた。それらについて真実の答えが理解できたとは到底思えないし、また、これから先、悩みながら、探したり見つけたりしていくものだと思っている。答えが見つからない中でも、今の自分にできる精一杯の力で考えた、考え抜いたこのプロセスに、この授業の大きな意味があった。本当にありがとうございました。

[S] 最終回、休んでしまって本当に申し訳ありませんでした。とても残念に思っています。「4回生になっても、絶対平松先生の授業を取ろう」そう思える授業でした。ぜひ来年度も開講してください。私もそれまでに大村はまさんなどのたくさんの本を読んで、先生と語り合えるようになっておきます・・・(笑)。ありがとうございました。

[Y] 教師になるにあたっての気持ちにもっていき方や作り方などを主に魔何田野ではないかと思えます。中でも特に印象に残っているのは『平成坊っちゃん物語』です。先生の新人のときの体験や思いに触れることはとても刺激になりました。また、後半の授業では外部からたくさんの方に来ていただき、とてもためになる話を聞くことができたのでよかったと思っています。

[K] 平松先生はじめ、多くの先生方の教育観を聴く機会を設けていただき、刺激を受けっぱなしだった。現代の教育現場の問題や対応を知ると同時に、先生方のお話から教師という仕事のすば

らしさややりがいを感じる事ができた。同時に、自分の教育観について真剣に考え、教師を目指す思いがますます強くなった。平松先生のように、愛のある教育がしたいという憧れも抱いた。うまくまとめることができないが、「教師になりたい」という気持ちで、今、溢れている。

[W] この授業を受講して、教育にとって大切なものは何かということをもっと一つ知ることができました。教師には生徒のことを一番に考えた授業をつくっていく授業が必要である。それには、まず教師自身が学び、向上していくことが大切であるということを知り、しかし教師はそれだけではなく、いつも子どもを見守り、叱ることも必要であるが、それ以上に子どもの心に寄り添い、理解してあげることが大切であることも学びました。この授業を受けて、また一段と教師になりたいという気持ちが強くなりました。

[N] この授業では他の講座では教えられなかった「教師として、子どもたちにどうかかわればよいか」という教科指導以外の大切なことを教えてもらいました。平松先生や講師の先生方が実体験を語ってくださったおかげで、本当にわかりやすかったです。この授業を受けて、自分の中で、「自分のクラス、学級を持ちたい」と強く思えるようになりました。教師を目指す私にとって、平松先生の授業を受ける事ができて、本当に良かったです。

[N] 教師を目指している自分にとって、様々な教育観を学び得ることのできる授業でした。実際の教育現場での体験をもとに、平松先生が授業をしてくださるので、私も先生のように充実した教師生活を送りたいと強く思いました。教師という職に対するモチベーションが高まりました。特別講師の先生の講義も含まれており、教師になった際に子どもたちに伝えたいことをたくさん学び得ることができました。本当にありがとうございました。

[理学部学生①] 私は理学部なので教育実習はまだ行っていません。その中で、いろいろな人の実践的な講話を聞いたり、平松先生の今までの「生きざま」を通していろいろな実践に触れることができた。また改めて、自分が「なぜ教師を目指しているのか」「教育とは何か」というようなとても当たり前で、一番大切なことを考えさせてくれた気がした。そして、改めて教師になりたいと強く思うと同時に、良い先生になれるようしっかりとあきらめず、日々努力していこうと再確認できた。本当にありがとうございました。

[理学部学生②] 授業の教材づくり、話術、授業の展開の仕方など、学ぶことが本当に多くあったと思います。また、その授業力を支える豊富な知識や経験を授業中にもひしひしと感じました。また先生のあくなき向上心は私も忘れないように心がけていきたいと思っています。教師として当たり前のこと、必要なことを学ぶことができた授業だったので、本当に受けてよかったです。

紙面の都合で一部のコメントのみ掲載させていただきます。みなさんの健闘を心からお祈りいたしております。みなさんから得た「勇気」を来年度の授業づくりに生かしたいと思っています。